

31H 橋本 睦月 32H 今井 萌え乃 33H 松井 美月
 35H 池田 弥禄 35H 室坂 有咲 36H 杉田 翔英

■課題

交通機関が充実していない

■解決策

デマンド交通の導入

■現状（課題の背景）

● 現在の交通機関の現状

- 公共交通機関の本数が少ない（バス、電車）
- 運賃が高い。
- 予約制乗合タクシーが能登町にあるが、運賃が1200～2000円と高い
- 利用する時間帯が偏っている。（図1）

<http://www.town.anamizu.ishikawa.jp/data/open/cnt/3/432/1/rennkeikeikaku.pdf>

- 交通空白地→七尾市の場合人口の8.6%が空白地に居住
 →とくに奥能登に交通空白地が多い。

● デマンド交通とは

- 利用者が電話などで乗車を予約し、運行エリア内から乗り場、降り場を指定できる交通手段のこと。国内でもいくつかの地域で導入され、地域に根付いた例もある。

● デマンド交通を導入することに対するデメリット

- 電話で予約してからデマンド交通を利用するため、専用のオペレーターが必要になる。
- 高齢者の利用時に予約方法が分からない可能性がある。
- 利用者が減少しているバスの利用をさらに減らしてしまう可能性がある。
- 実施例が少なく導入してみるまで調整が難しい。
- 必ずしも時間が指定できるわけではない。

● デマンド交通を導入することに対するメリット

- 予約制にすることで運行の効率化。
- 家からバス停までが遠い人にとって便利な交通機関である。
- 運営会社と経路や出発時刻等で連携することによって交通空白地を埋めることができる。
- 高齢者の閉じこもり防止につながる。
- 自治体主体で運営すれば、価格を自由に設定できる。
- 人数によっては小型車で済むためバスが通れない道も通れ、コストも削減できる。

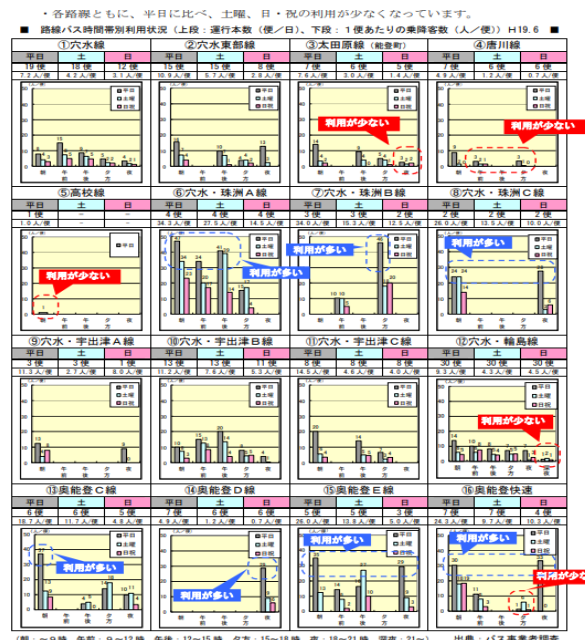


図1 穴水の例

のと鉄道 穴水・和倉温泉方面

7	12, 43
8	17, 58
9	31, 48(特)
10	47
11	36(特), 43
12	17(特), 26
13	12
14	2(特), 8
15	26(特), 33, 52(特)
16	20
17	53
18	40
19	15, 32(特), 54
20	
21	5(特), 12
22	0

北鉄奥能登バス

宇出津駅前発

7	50
9	30
12	28
14	45
16	35
18	10

北鉄奥能登バス

穴水駅前発

8	34
9	14
10	55
13	54
16	9

■具体的内容

- デマンド交通の業務を地元タクシー会社に委託する。（オペレーター、車、運転手等）
- 自治体自らデマンド交通を運営する。
- デマンド交通の価格を自治体からの補助金等を充てて下げる。
- 新聞、ローカルテレビ、回覧板、ポスターの掲示等によりデマンド交通のサービスを知らせるとともに高齢者にも容易に理解可能なように利用方法をひろめる。

■効果

- 交通空白地域にも交通網が広がる。
- 体の不自由な人や高齢者も気軽に使える交通手段の普及。
- 新たな雇用の創出。
- 地元企業の活性化を促す。
- システムが拡大していけば登校や通勤のための交通手段としても利用される可能性がある。また自治体からの資金面の負担も小さくなっていく。

